

2004年の商品先物市場

取引金額は最高の244兆円
受渡額も史上最高
出来高は6年振り減少

2004年の商品先物市場は増加・減少が交錯した動きとなった。全国商品取引所連合会調べの速報値によると、取引金額は244兆円と5年連続、史上最高を記録、受渡金額も史上最高となった半面、出来高は1億4,419万枚と6・4%減少、6年連続の史上最高はならなかった。取引所別では東京工業品取引所がシェアを落としたものの、引き続き、2位以下を大きく離してトップを独走している。

GDPの半分弱

たのははじめ、金、アルミニウムなど一次産品価格が急

【取引金額】

商品先物市場の規模を示すバロメーターともいえる取引金額は244兆円(横浜商品取引所の国際生糸の4,773万ドルを除く)と、前年度の219兆円より25兆円、11・4%増え、5年連続史上最高を更新した。これはGDP(国内総生産)の半分弱に相当する。

取引所別取引金額(単位:10億円)			
	2004年	2003年	前年比%
東工取	180,733	170,608	105.9
東穀取	30,084	18,452	163.0
中部商取	23,404	17,657	132.5
大阪商取	5,408	7,839	69.0
福岡商取	2,501	1,784	140.2
関西商取	1,697	2,183	77.7
横浜商取	383	634	60.4
合計	244,211	219,158	111.4

騰、農産物も値を上げたものが多く、これが取引金額のトップを引き続き東工取のガソリンだった。取引所別では最も多かったのが東工取で181兆円弱と全体の74%に達した。2位は東京穀物商品取引所で30兆円強。

前年より6・4%減少

【出来高】
出来高(オプション取引を

取引所別出来高(単位:1,000枚)

	2004年	2003年	前年比%
東工取	74,447	87,252	85.3
中部商取	33,193	31,539	105.2
東穀取	25,706	21,085	121.9
大阪商取	3,843	6,163	62.4
福岡商取	3,037	2,739	110.9
関西商取	2,804	3,441	81.5
横浜商取	1,165	1,852	62.9
合計	144,194	154,071	93.6

取引所別では、東工取が7,445万枚と14・7%減ったものの、それでも全体の51・6%を占めトップの座を維持した。2位は石油関連の出来高を伸ばした中部商品取引所が3,319万枚で23%を占め、東穀取は3位だった。

37%増の1,576億円

【受渡金額】

受渡金額は前年より36・8%増え、1,576億円と前年に続いて史上最高を更新した。トップは東工取の1,187億円、前年より38・6%増えるとともに、全体の75・3%を占めた。2位は中部商取の249億円。いずれもガソリン、灯油が圧倒的に多い。いまや、取引所は「商品の販売、購入の場」としても、存在感を大きく増してきたといえそうだ。

取引所別受渡金額(単位:100万円)

	2004年	2003年	前年比%
東工取	118,689	85,651	138.6
中部商取	24,906	18,825	132.3
東穀取	9,363	6,785	138.0
大阪商取	2,191	1,807	121.3
福岡商取	1,280	988	129.6
関西商取	630	417	151.1
横浜商取	511	687	74.4
合計	157,571	115,160	136.8

各地で
賀詞交歓会独自性の発揮求めて
横浜は野菜上場記念

1月4日の東京での合同賀詞交歓会に続いて、5日から25日にかけて全国各地で商品取引所主催の賀詞交歓会、互礼会が開かれた。どこでも、改正商品取引所法の施行を控えた業界にとって節目の年としてとらえ、いかに地方市場としての独自性を発揮するかに挨拶の重点が置かれていた。

新規上場、積極的に

大阪、関西商取

大阪商品取引所と関西商品取引所は1月5日、大阪市北区のリーガロイヤルホテルで、平成17年新春賀詞交歓会を開いた。行政や商



業界首脳そろって鏡開き

品先物
業界関
係者な
どおよ
そ20
0人が
出席し
新年を

魅力のある取引所を目指している。いま、ガソリン、灯油、ドル建て金などの新商品上場に取り組んでいる。これらは、主務省の理解を得る段階を迎えた。懸念のコンピュータによる取引

【天野理事長の挨拶】

天野正義大阪商取引所理事長の挨拶が始まり、岩村信関西商取引所理事長が続いた。来賓挨拶では、近畿経済産業局、近畿農政局を代表して戸井朗人近畿経済産業局産業部長が祝辞を述べた。

祝った。

農産物市場、感謝のタペ
中部商取

中部商品取引所は1月25日、名古屋マリオネットアソシアホテルで、「農産物市場感謝のタペ・平成17年新春賀詞交歓会」を開いた。中部商取は昭和31年の旧名古屋穀物砂糖取引所創設以来開いていた農産物市場を1月31日に廃止することを決めており、賀詞交歓会と兼ねて、農産物市場閉鎖に伴う感謝の会を催したもの

木村理事長の挨拶
で、農水省の田辺義貴商品取引所監理官や南學政明東工取理事長など約160名が参集、名残を惜しんだ。

「昨年4・12月は出来高が前年より13%伸びたが、今後は手数料自由化や改正商取引所法施行などもあり気を引き締めていきたい」と挨拶。その後、来賓を代表して田辺監理官が「将来、また農産物市場が復活するようになしてほしい」と述べ、中部商取協会・村上久広会長(三貴商事副会長)の音頭で乾杯、約1時間半、歓談の輪が広がった。

野菜先物順調
横浜商取

横浜商品取引所は1月19日、新年賀詞交歓会を野菜



野菜上場祝って鏡開き

「野菜先物取引は世間の注目が驚くほど高い。当業者の関心も強いので理想的な先物市場になりうる。これまでのところ取引は順調。大切に息長く育てたい」と抱負を述べた。農水省の田辺義貴商品取引所監理官は「農水省も強い関心を持ち、うまくいけばいいなと思っている。地方の特色を生かし、新しい境地を開いてほしい」と期待を述べた。

続いて、森實孝郎全商連副会長・東穀取引所理事長が、「季節、天候、需要の変化に敏感に映し、おもしろい、興味を持てる商品だ」と強調、横浜商取協会の加藤雅一会長は、「消費者の関心も感じている。立派なマーケットに

ビジョン研究結果出す
福岡商取

福岡商品取引所は1月7日、福岡市中央区のホテルニューオータニ博多で、新年互礼会を開いた。地元関係団体、業界関係者などおよそ170人が出席し、談笑の花を咲かせた。

最後には、先物協会の佐藤陽紀副会長が「商品先物取引業界が厳しい風にならされる中で、野菜上場ありがとう。先物市場の役割・有効性を示したい」と締め